サケの産卵行動（市村さん提供）

親と子の「命のつながり」を教える

11月以降、死骸のうち、陸上に移動しているものは、鳥や動物が運んだもの。死骸は貴重な餌になっているのです。陸上でヒグマやオオワシなどの餌になったあと、それらの糞が植物の栄養となり、森を豊かにしていくのです。

水中で死んだサケたちは、水生昆虫の貴重な餌になります。標津には1、2センチぐらいのヨコエビがいるのですが、サケの死骸を餌にも、隠れ家にもしています。

しかし、水中の死骸を餌にした水生昆虫も、春先になると、今度はサケの稚魚の餌になる。川で生まれ海で育ったサケは、海と川と森を結ぶ貴重な存在でもあるわけです。

を結ぶ

子どもたちは言うのですが、「誰かがさばいてくれているから、私たちは魚を食べられる」という話もします。魚だからこの程度で済むけれども、もしこれが、ブタやウシだったらどうなるか、と。

そうした話の中から、命の不思議や尊さ、生き物を大切に扱わなければならないことなどを感じとってもらえればうれしいですね。

いちむら・まさき　1967年、北海道・下川町生まれ。大学で資源増殖を学ぶ。91年より現職。

グローバル人材を目指そう

西澤めぐみ

「異文化」に飛び込み、もまれる経験を

最近、日本人の留学生が減っているという話を聞きますが、20年以上大学生やビジネスパーソンの海外留学をサポートしてきた経験から言うと、関心はむしろ高くなっているように感じます。海外留学についての正しい情報や周囲の理解が十分でないため、あきらめてしまうケースが少なくないのではないでしょうか。

海外留学、特に現地の大学に正式に入って必要な単位を取得し卒業する「海外進学」は、グローバル人材が求められるこれからの時代、もっと注目されるべきだと思います。20歳前後の多感な時期、異文化に飛び込み、多様な価値観の中でもまれることは、現地の言語をマスターするだけでなく、主体性やコミュニケーション力をはぐくむ絶好の機会だからです。

私もかつて高校1年生のとき交換留学奨学生として渡米しましたが、高校にホームルームはなく、最初はお客さま状態でした。

アメリカというのは良い意味でも悪い意味でも個人主義的で、自分は人と違って当たり前、はっきり自己主張することが求められます。何かあっても「助けてほしい」と言わなければ誰も助けてくれないのです。そういうことが半年ぐらいたってやっと分かってきました。その後もいろいろな国で暮らしてきましたが、国によって文化や国民性、価値観はそれぞれ違います。日本と違うことを知ること自体、意味があるのです。

ところで、海外留学というと最初から費用的に無理と思い込んでいる人も多いのですが、最近の円高もあり、実際には日本国内とさほど変わらないケースが少なくありません。たとえばアメリカの州立大学の中には、学費や生活費を含め、年間250万円程度で済むところがあります。

ただし、「海外進学」では事前の準備が重要です。費用だけでなく授業内容などよく調べ、また卒業後の就職についてもあらかじめ考えておくほうがいいと思います。「向こうへ行けばなんとかなる」というものではありません。

こうした「海外進学」のメリットや具体的な手続きなどについて今回、『世界に飛びだそう！目指せ！グローバル人材』（ダイヤモンド社）を上梓しました。グローバル人材になるにはどうしたらいいのか関心のある高校生、大学生、その親御さんや高校の先生方にご一読いただければ幸いです。

＝談

にしざわ・めぐみ　株式会社地球の歩き方T&E「成功する留学」チーフカウンセラー。㈳日本産業カウンセラー協会認定産業カウンセラー。

ありがとうございます。おかげさまでビール売上 No.1※
※2009年 アサヒビール年間ビール課税移出数量に基づく
Asahi
その感動を、わかちあう。
レミアムでも、喜ばれるのは、アサヒのギフト。